

第3回検討委員会における意見と対応について

第3回検討委員会における意見と対応

- (1) 地震動
- (2) 津波
- (3) 液状化、土砂災害
- (4) 被害想定
- (5) 被災シナリオ

第3回検討委員会における意見と対応

(1) 地震動

No	項目	意見	対応
1	地盤モデル	既存の地質資料と作成した地盤モデルを比較し、その確からしさを評価することが必要。	断面図を複数作成し、既存資料との比較して妥当性の検証を行った。【資料1 p10~18等】
2	〃	場所によっては地盤のトレンドが異なるところがあるため、複数の地質断面図で確認した方が良い。	同上 【資料1 p.19~23】
3	予測結果	予測結果に対しては、内閣府との差分の要因を明らかにしておく。	結果を比較し、要因について考察を示した。【資料1 p35】
4	予測条件	等価線形解析に用いるPS検層のデータやGh~ γ 曲線等の条件を示す。地点ごとの個別の計算結果を確認する。	巻末資料として示した。個別地点の詳細なデータについては報告書に整理する。【資料1 p46】

(2) 津波

No	項目	意見	対応
5	計算条件	国土地理院の地形データをアップデートするが、高知市はその変化を確認した方が良い。	過年度のデータと比較し、その変化について示した。【資料2 p6】
6	予測結果	津波の波形を求め、その傾向を見ていただきたい。	代表地点について、津波の時間変化を示した。【資料2 p18】

第3回検討委員会における意見と対応

(3) 液状化、土砂災害

No	項目	意見	対応
7	液状化予測条件	係数Cwの扱いについては、高知県のその地盤の特徴というのを加味した上で議論していけば良い。	土質データを用いて検討を行い、設定値の根拠を示した。【資料3 P4】
8	液状化沈下量	代表地域、重要構造物における沈下量があると、住民や事業者に対してはわかりやすい。	想定した沈下量に対して、重要地点などの情報を加えて整理する。
9	液状化予測結果	液状化の可能性が低いとされる場所でも被害が出ている事例があるので、履歴などを活用して結果の確認や考察を示した方が良い。	想定結果と履歴図の比較を行った。想定結果で可能性が低い場合でもリスクがあることを強調して示していく。【資料3 P14,P35~37】
10	〃	前回調査や内閣府結果との違いについて、細かく要因分析を示すことが必要。	想定結果を比較しながら、結果が異なる理由について示した。【資料3 P9,13】
11	土砂災害予測結果	土砂災害における危険度ランクの意味について、被害の程度などと関連させて書き込むことで、住民目線でわかりやすくなる。	危険度ランクの示す内容について補足を加えた。【資料3 P17,18】
12	土砂災害予測条件	可能であれば、重要な場所については細かな計算ができる方が良い。	土砂災害警戒区域等を対象とした予測について、より細かい5mDEMを活用した。【資料3 P18】
13	土砂災害目的	どのような目的でハザードを想定するかを示すことが重要である。	液状化、土砂災害想定の目的を示した。また、関連する情報（例：道路網）と合わせて結果を示した。【資料3 P2,17,18,19~25、43~57】

第3回検討委員会における意見と対応

(4) 被害想定

No	項目	意見	対応
14	人的被害	発災後に体調壊す場合について、被害の推計を考慮していただきたい。	石川県（2024年能登半島地震）等の事例を調査する。
15	〃	傷病者についてもしっかり把握をしてほしい。	同上
16	〃	液状化の健康影響についても推計出来たら良い。	同上
17	想定結果	定量的な結果については、細分化した状況に合わせて数値を示すことで、実際の状況が想像できるように工夫をしていただきたい。	結果と条件を合わせて整理する。
18	〃	条件や行動による被害量の変化を示すことが特に重要である。	減災効果の検討も行い、シナリオに反映する。
19	ライフライン	ライフラインについて、高知市と高知市以外について、どういう状況なのかを整理しておく必要がある。	高知県、高知市、ライフライン事業者等にヒアリングを行い、状況を整理する。
20	地盤沈降	地盤沈降によって液状化が発生しやすくなる可能性もあるため、取り扱いを決める必要がある。	実例や論文について調査を行い、様相として取りまとめる。
21	長期浸水	長期浸水は別途委員会はあるんですが、その整理結果をぜひこの被害想定の中に反映させていただきたい。	高知県の個別委員会の結果を確認し、状況を整理する。
22	観光客	前回と今回の一番大きな違いなので、クルーズ船の問題は入れ込んでほしい。	国交省の災害時の船舶活用マニュアルを整理し、シナリオで考慮する。

第3回検討委員会における意見と対応

(5) 被災シナリオ

No	項目	意見	対応
23	フレームワーク	命を守る、繋ぐ、立ち上げる、段階との関連については目安ということがわかるように発信する必要がある。	シナリオを整理する際に留意する。
24	〃	L1だと状況が変わる可能性もあり得る。	〃
25	〃	被害想定のエビデンスと被災シナリオが相互に補強しあうようにとりまとめをしていただきたい。	〃
26	主体	観光客（国内から、クルーズ船、お遍路さん）を区別をして考慮すると良い。	主体として想定する。
27	複合災害	感染症、気象気候に関してについても、ハザードとして捉えて考えるのがよい。	ご指摘を踏まえて整理する。
28	地域特性	沿岸部は山付きの場所を区別するのが良い。	同上
29	複合災害	九州地域の火山の影響が生じる可能性がある。取り扱いを考える。	複合災害で入れ込むか検討する。
30	消防関連	長期浸水した際の消防の状況や、消防広域化の移行期における被害影響も考慮した方がよいと思う。	現況を整理し、シナリオへの反映を検討する。
31		中山間地への支援遅れの可能性を考慮していただきたい。事前防災が重要となる。	同上